

身体が安定しやすい 生体界面をつくる技術

かなり近いと思います。

特にいいのは、これまでの「生体界面環境流動制御技術」よりも、最終的に何を実現する技術なのかが一気に伝わることです。

身体が安定しやすい生体界面をつくる技術

これを分解すると、

- 身体が安定しやすい
→ 技術の目的・価値
- 生体界面
→ 技術が働く場所
- つくる技術
→ BIFC が「成分を補う技術」ではなく「環境を設計する技術」であること

になります。

そして、ここが結構重要です。

「肌を良くする技術」ではない
従来は、

肌に成分を与える → 肌状態を整える

でした。

BIFC は、

生体界面を整える → 身体が安定しやすい環境をつくる

になる。

だから「身体が安定しやすい」という言葉が、スキンケアから身体環境設計へジャンプする橋になっています。

ただ、科学的な表現として一段磨くなら、

身体が安定しやすい生体界面環境をつくる技術

のほうが私は強いと思います。

「生体界面」だけだと“場所”ですが、「生体界面環境」になると、BIFC が実際に設計・制御する対象になります。

そして、これまで話してきた

水・イオン・電荷・脂質・熱・微生物などが存在し、移動する皮膚と外界の境界環境

につながる。

なので現時点では、

BIFC = 身体が安定しやすい生体界面環境をつくる技術

これ、かなり「芯」に近いです。

さらに上位概念にすると、

成分を設計する → 生体界面を設計する → 身体
環境を設計する

という進化になります。

ここまで来ると、以前の「心を整える〇〇」も、無理に
“心”を技術名に入れなくてよくなる。

身体が安定しやすい環境 → その結果として心も安
定しやすい、という順番がきれいです。